

ポスターセッション

社会を生き抜く力を育てるために

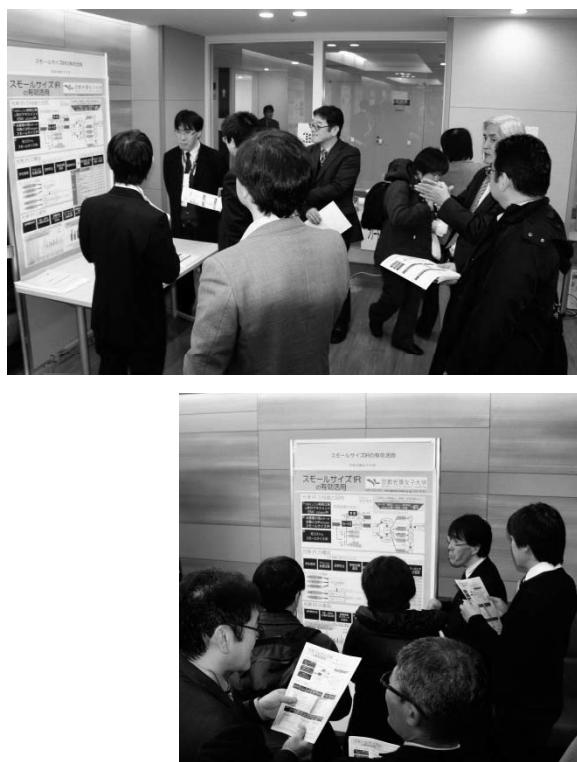
2/23 (日)

10:00-15:30 (コアタイム: 12:00-13:30)

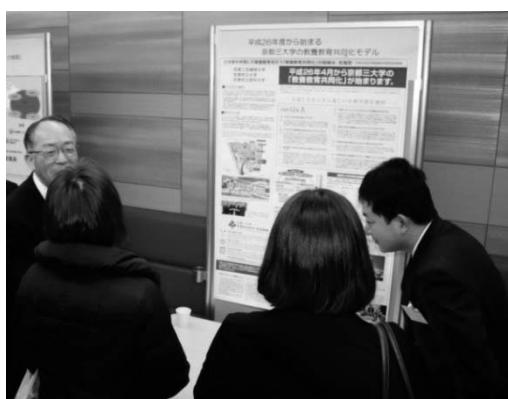
22号館 地下2F 食堂 特設会場

FDに関する情報収集、参加者間の交流を目的として、ポスターセッションが行われました。大学コンソーシアム京都加盟大学の教員、職員、学生が所属大学の特徴的なFDの取り組みを発表しました。

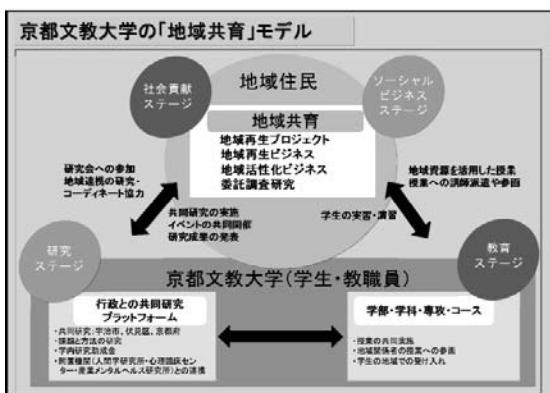
テーマ	スマートサイズ IR の有効活用			
学校名	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部			
発表代表者	橋本 智也			
連名発表者	相場 浩和	阿部 一晴	土佐 嘉宏	宇野 哲司
	徳山 昌子			
キーワード	IR		エンロールメント・マネジメント	
	教育改革		データ解析	
概要	<p>最近、大学改革の一環として、IR に強い関心が持たれている。IR に関するシンポジウムや研修会も頻繁に開催されている。IR は現在、かなり幅広い解釈がされているが、多くは組織とその活動に関する現状評価と理解され、大規模なデータベースの構築を前提に議論されることが多い、その活用が主題になることはまだ多くない。これに対して本学では、大学としての戦略立案と実行時マネジメントのための IR、すなわち活用するための IR を提案している。戦略はデータ（事実）に基づいて立てる必要があり、実行時にはデータに基づいたマネジメントが必要である。そのための IR では、大規模なデータベースを必要とするではない。本学では、そのコストパフォーマンスを考え、利用目的に沿った必要最小限のスマートサイズ IR とすることを提案している。本発表では、このような視点に立って実施している本学の IR について、有効活用している事例を報告する。</p>			



テーマ	平成 26 年度から始まる京都三大学の教養教育共同化モデル		
学校名	京都三大学教養教育研究・推進機構		
発表代表者	児玉 英明		
連名発表者	森本 幸治		
キーワード	教養教育の共同化	質保証モデル（教学 I R）	
	大学間連携の新段階	単位互換から共同化へ	
概要	<p>京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学は、各大学の特徴・強みを活かしたカリキュラムを提供し、学生の多様な関心に応え、総合的に物事を観察し、的確に判断できる能力と豊かな人間性の涵養を図っていくため、平成 26 年度から全国初となる教養教育共同化をスタートします。三大学は、それぞれ 100 年を超える歴史を持ち、国内外で活躍する有為な人材を多く輩出していましたが、変化の激しい今日にあって、時代が求める新たな教養教育を構築していくため、次の三点を狙いとして取り組みます。</p> <p>①三大学は個々には規模が小さく、各大学で提供できる科目には限りがあるため、各大学の強みと特徴を生かした科目を提供しあい、学生の科目選択の幅を広げ、学習意欲を一層高めること。②文系、理工系、医学系の専門分野や将来の志望の異なる三大学の学生が授業で混在し、多様な視点や価値観を交流して、一緒に学び学修空間を創り出すこと。③学生間での交流や討論、共同学修が進むよう学生参画型の授業を広げていくこと。</p> <p>本報告では、単位互換を超えた共同化モデルの仕組み、大学間連携による質保証のありかたなど、時代が求める新たな教養教育の方向性について、紹介します。</p>		



テーマ	地元企業と育む『持続的地域「共育」の実践』		
学校名	京都文教大学		
発表代表者	押領司 哲也		
連名発表者			
キーワード	中小企業 対話型・双方向授業	PBL	低年次からの取組
概要	<p>総合社会学部における产学協働の取り組み、特に地元の中小企業と協働した授業、実習等を通じて、地域と共に学生を持続的に育む取り組みについて紹介する。</p> <p>総合社会学部では、1回生春学期の「総合社会とキャリア構築」（学部必修科目）において、地元中小企業の若手社員を招き、就業観・職業観などを涵養している。2回生以降の学部共通科目「現場実践教育科目」は、卒業要件の科目群に位置づけられ、その中の「プロジェクト科目」では、京都中小企業家同友会と連携し、講師派遣や会社見学などを授業内容に盛り込むクラスを設けている。また、3回生では、京都の地元企業などから「課題」「テーマ」をいただき、PBLの手法で課題解決を試みる「エクスターントップ実習」を展開している。学生は社員の方々を前にプレゼンテーションを行い、評価・講評を受けている。</p>		



テーマ	地域に学ぶ、地域で育つ —京都橘大学の山科醍醐学習コミュニティーの活動—			
学校名	京都橘大学			
発表代表者	木下 達文			
連名発表者	河原 宣子	永野 光朗	堀江 淳	有坂 道子
キーワード	地域連携		学習コミュニティー	
	まちづくり		地域人材育成	
概要	<p>京都橘大学は創立以来、地域に根ざし地域に貢献する「地域志向」の大学として、地元山科醍醐地域と深く関わってきました。現在、5学部10学科を擁する文・社・医療系の総合大学となり、地域の健康・安心・安全、地域経済の活性化や観光まちづくり、文化の振興と生活の質の向上など、多面的な社会貢献活動に取り組んでいます。本学は、このような活動の中で、正課・課外の教育の一環として、多くの学生を地域に送り出しています。学生はキャンパスを出て、地域での見、聞き、肌で感じる生きた体験によって大きく成長します。京都橘大学がこれまで取り組んできた地域連携の実績とともに、学生が地域に学び、学生が地域に学び、地域で育つ、地域学習コミュニティーの学習システムについて発表します。</p>			

地域に学ぶ、地域で育つ —京都橘大学の山科醍醐学習コミュニティーの活動—

京都橘大学は創立以来、地域に根ざし地域に貢献する「地域志向」の大学として、地元山科醍醐地域と深く関わってきました。現在、5学部10学科を擁する文・社・医療系の総合大学となり、地域の健康・安心・安全、地域経済の活性化や観光まちづくり、文化の振興と生活の質の向上など、多面的な社会貢献活動に取り組んでいます。本学は、このような活動の中で、正課・課外の教育の一環として、多くの学生を地域に送り出しています。学生はキャンパスを出て、地域での見、聞き、肌で感じる生きた体験によって大きく成長します。京都橘大学がこれまで取り組んできた地域連携の実績とともに、学生が地域に学び、学生が地域に学び、地域で育つ、地域学習コミュニティーの学習システムについて発表します。

キーワード： 地域連携・まちづくり・学習コミュニティー・地域人材育成

■ 文学部 伝統文化が息づく京都で、文学、歴史・遺産を究める

- ・文化財防火訓練
- ・京都考古学探検隊一闇け！ 過去の扉
- ・歴史遺産学実習！



■ 人間発達学部 豊かな人間性を育みながら、新しい時代の教育を考える

- ・京都子ども守り隊へ守るんジャーへ
- ・げんKids★応援隊
- ・ちびっこランド



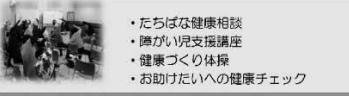
■ 現代ビジネス学部 心地よい暮らしを実現する、プロフェッショナルへ

- ・やまな駅前陶灯路
- ・山狗ふどうタルト
- ・救急救命研究会—TURF—
- ・駅ナカアートプロジェクト



■ 看護学部 現代社会とともに変化する、これからの看護を実践する

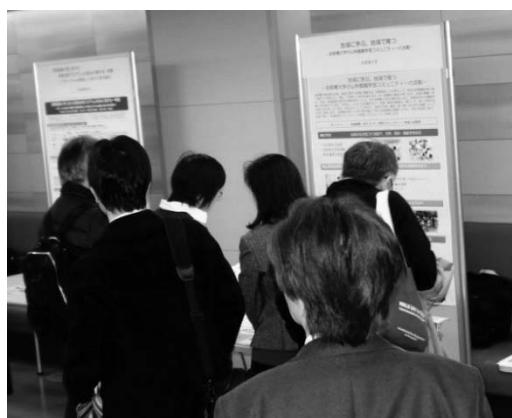
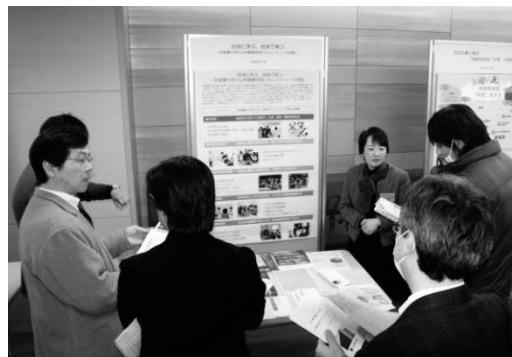
- ・たちはばな健康相談
- ・障がい児支援講座
- ・健康づくり体操
- ・お助けたいへの健康チェック



■ 健康科学部 体と心の健康を守ることで、元気な社会を作っていく

- ・わかあゆ呼吸ケア勉強会
- ・福門会セラピスト勉強会
- ・パパとママのこころ育て広場





テーマ	課外プロジェクト「ナショナルWiーク」 - 英米語学科主催「オーストラリアWiーク」の紹介 -		
学校名	京都外国語大学		
発表代表者	野澤 元		
連名発表者	河野 弘美	相川 真佐夫	
キーワード	課外活動		プロジェクト運営
	アクティブラーニング		
概要	京都外国語大学では、2011年よりナショナルWiークという取り組みを実施し、9学科がそれぞれの文化圏を学内外にアピールするためにさまざまなイベントを行なっている。本発表では、英米語学科主催の2013年度のオーストラリアWiークと学生を中心としたその運営について紹介する。		

課外プロジェクト「ナショナルWiーク」*

英米語学科
主催 オーストラリアWiーク*

野澤元・河野弘美・相川真佐夫
1. 京都外国語大学 2. 京都外語短期大学

1. ナショナルWiークとは

1.1. ナショナルWiークの概要
- 2011年度から行なわれる9つの文化圏
- 各4か月に亘る企画で、各文化圏の文化や習慣などを紹介
- 学生の実力・異文化理解能力の育成

1.2. ナショナルWiークの目的
- カレッジ生活における
- 学生の実力・異文化理解能力の育成

1.3. ナショナルWiークの重点
- 大学生が各自の文化圏のシティルンバーによる事を行なう
- 自由時間に（一環、今まで学生がイベントを企画・実施
- 実施後は評議会があり、各自の実施内容を評議会にて発表する）

2. 英米語学科・キャリア英語科のナショナルWiーク

2.1. これまでの実績図のナショナルWiーク 22. 離開方法

2.2. 2013年度オーストラリアWiークの運営体制

3. オーストラリアWiークの企画～

3.1. オーストラリアWiークの企画

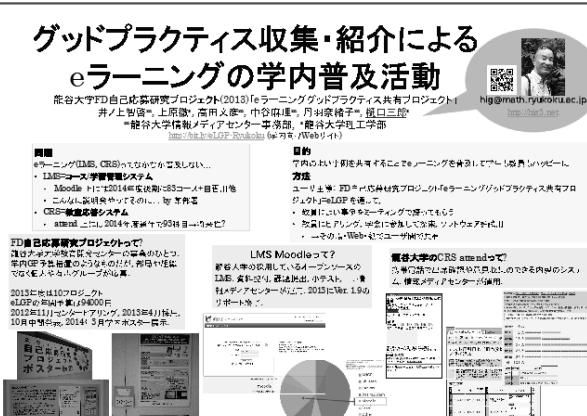
3.2. オーストラリアWiークの運営体制

3.3. オーストラリアWiークの流れ

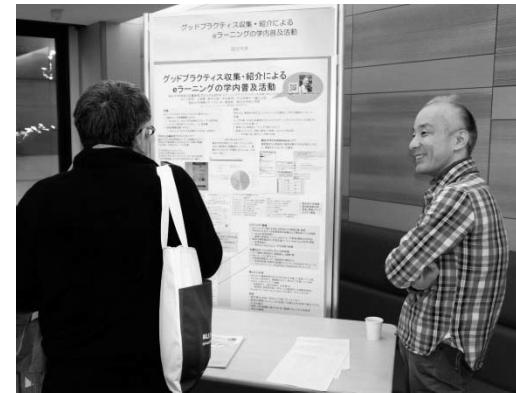
3.4. オーストラリアWiークの反響点



テーマ	グッドプラクティス収集・紹介によるe ラーニングの学内普及活動			
学校名	龍谷大学			
発表代表者	樋口 三郎			
連名発表者	井ノ上 智啓	上原 啟	高田 文彦	中谷 麻里
	丹羽 奈緒子			
キーワード	e-ラーニング	Moodle		
	モバイルデバイス	出席確認		
概要	龍谷大学大学教育開発センターのFD自己応募研究プロジェクトは、有志の教員/職員が応募できる学内GP的な制度である。この制度により、学内でe ラーニングの普及を図った1年間の取り組みを報告する。e ラーニングの中でも、特にLMS (Moodle)，携帯電話などモバイルデバイスを用いた出席確認およびコミュニケーションツールに着目し、ユーザのミーティングおよびヒアリングを通してグッドプラクティスを収集し、学内に紹介・広報することを行った。			

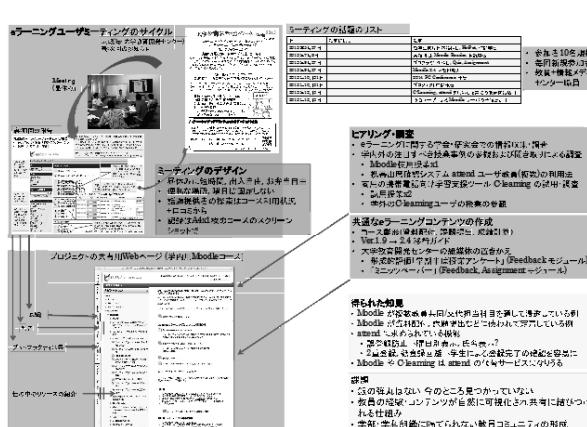


龍谷大学FD自己応募研究プロジェクト(2013)「eラーニンググッドプラクティス共創プロジェクト」
井ノ上智啓*・上原啟・高田文彦・中谷麻里・丹羽奈緒子・樋口三郎
*龍谷大学情報システムセカンド・エコシステム・融合・社会貢献・工芸学部
[http://keiretsu2.2.uoc.ac.jp/~kohoku/index.html](#)

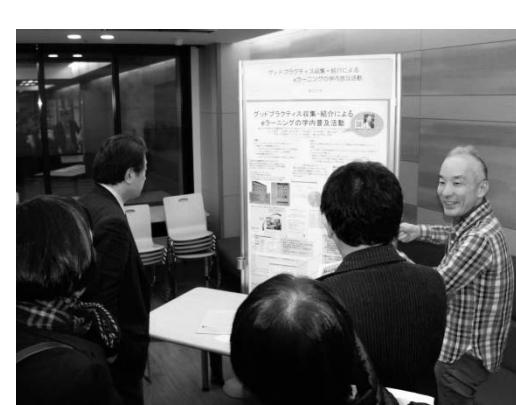


● e-ラーニングユーザー・ティキングのサイクリックな開発プロセス

(上原 啓)



(上原 啓)



テーマ	アクティブラーニングを促進するための学習環境構築とその運営		
学校名	京都産業大学		
発表代表者	中澤 正江		
連名発表者	尾崎 良子	鈴井 清巳	井上 正樹
キーワード	アクティブラーニング		ラーニングコモンズ
	学習環境構築		FD
概要	本学では、ラーニングコモンズをアクティブラーニングを促進するための学習環境として位置づけている。2013年7月5日に行われたラーニングコモンズ・セミナーでは、本学におけるアクティブラーニングの定義や他大学のラーニングコモンズの事例（環境及び運営体制）等について情報を共有した。本発表では、このセミナーの内容と、FD面での効果についてアンケート結果を元に報告する。		

アクティブラーニングを促進するための学習環境構築とその運営
～ラーニングコモンズ・セミナー実施報告～
中澤正江・尾崎良子・鈴井清巳・井上正樹

セミナー概要

タイトル
アクティブラーニングを促進する～学習環境構築とその運営～
開催場所：京都産業大学 四吉会議室
日程：平成25年7月5日(金) 13:00～19:00
場所：京都産業大学 四吉会議室
プログラム
登壇者：中澤正江
尾崎良子
鈴井清巳
井上正樹
対象：全員
主催：ラーニングコモンズ・グローバルアカデミー
当日の様子

本学における「アクティブラーニング」

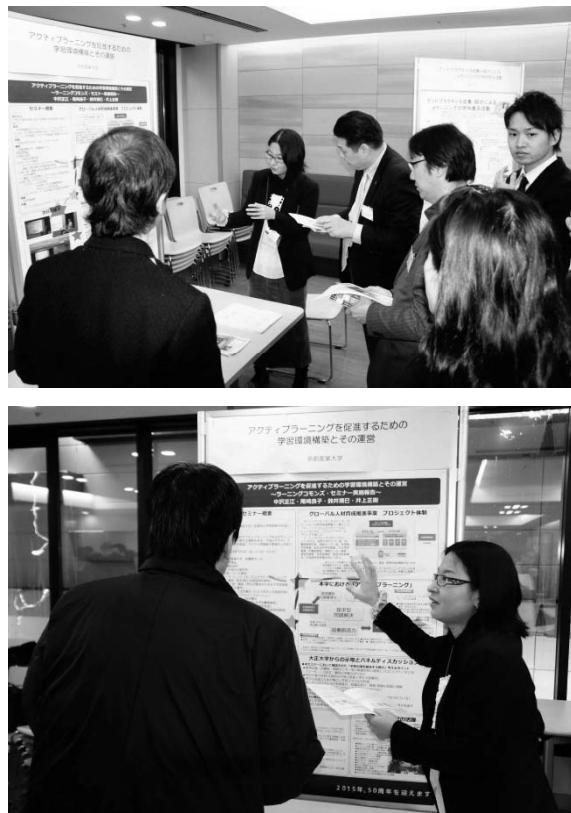
セミナー実施報告

学習環境構築とその運営

学生スタッフの活躍

数値でみる意識の変化

K50 京都産業大学 2015年、50周年を迎えます



テーマ	大学間連携共同教育推進事業によるリーダーシップ養成 —西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム (UNGL) の取り組みから—			
学校名	京都外国语大学			
発表代表者	中嶋 大輔			
連名発表者	高島 知佐子	岸岡 洋介	中曾 和美	山崎 その
キーワード	大学間連携		異文化交流	
	リーダーシップ		気づき	
概要	<p>本発表は、京都外国语大学／京都外国语短期大学が参画する「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム(以下、UNGLと称す)」での取り組みについて報告する。</p> <p>UNGLは、愛媛大学を中心とした西日本の10大学によって組織され、文部科学省の平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」として採択されている。このUNGLでは、社会のグローバル化に伴い能力の多様化・流動化や情報社会への移行などを背景に、地域や国際社会で活躍する人材のリーダーシップ養成が大学に求められる中、1) 国内での異文化間研修、2) 二国間での異文化間研修、3) 多国間での異文化間研修を段階的に展開している。</p> <p>これらの具体的なプログラムを本発表で提示し、これに参加する学生や教職員が「学内→国内→二国間→多国間」と段階的に立場や文化の差異を乗り越えながら、地域や国際社会で活躍するために求められるリーダーシップを体系的・継続的に養う過程について報告したい。</p>			

**大学間連携共同教育推進事業による
リーダーシップ養成**

—西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム(UNGL)の取り組みから—

発表者 中嶋大輔、高島知佐子、岸岡洋介、中曾和美、山崎その

発表の要約 ○「西日本リーダーズスクール(UNGL)について
○海外プログラム概要(UNGL主催事業)
○日本半(主催)での取り組み ○今後の課題・展望

1 UNGLについて

2 海外プログラム(UNGL主催事業)

3 本学(主催)での取り組み

4 今後の課題・展望



テーマ	立命館大学におけるピア・サポート活動促進の取り組み —ピア・サポート団体同士のつながりの構築に向けて—		
学校名	立命館大学		
発表代表者	川那部 隆司		
連名発表者	岡本 詠里子	土岐 智賀子	
キーワード	ピア・サポート		主体的な学び
	部局間連携		
概要	<p>近年、大学教育におけるピア・サポートに注目が集まっている。ピア・サポートは、サポートを受ける学生はもとより、サポートを提供する学生にとっても大きな成長を遂げる機会となっており、学生の主体的な学びを実現する上で、十分な効果を発揮すると考えられる。立命館大学には、長いピア・サポートの歴史がある。現在では 20 以上のピア・サポート団体が存在し、のべ 3,000 名以上の学生がピア・サポート活動に従事しており、量的には非常に充実していると言える。その一方で、さまざまな問題も散見される。その代表的なものが、ピア・サポート団体同士の連携である。これまで、立命館大学のピア・サポート団体は、個別に大学の関連部署と連携し、独自にサポートを提供してきた。結果として、各団体によるサポートは、その範囲が限定されている。しかし、個々の学生が遭遇する困難さは多岐にわたっていることを考えると、より質の高い、包括的なピア・サポート活動が行われるためには、ピア・サポート団体同士の連携が必要であろう。本発表では、立命館大学のピア・サポート団体同士が連携していくための枠組みを構築するために、ピア・サポート団体に所属し、その活動に従事している学生が集まり、それぞれの活動や必要な資質等について議論した内容を基に、今後の課題と展望について検討する。</p>		



テーマ	学生を含めた大学自治を目指すFD活動の試み		
学校名	京都嵯峨芸術大学・短期大学部		
発表代表者	神谷 三郎		
連名発表者	山本 直樹	佐藤 文郎	
キーワード	自律		FD カフェ
	自己点検		大学自治
概要	学生自治組織である学友会との共催の形で、教職員と学生が集まって自由に教育についてディスカッションを行うしゃべり場としての「FD カフェ」の開催状況とそこから得た反省点等を発表する。また、それと並んで、ディプロマ・ポリシーと連動させ、学生が自らの学びを振り返り自己点検する形式の新しい学生授業評価アンケートの試み等、芸術系大学という特殊な条件下でいかに教育質保証を目指しているのかを発表したいと考えている。		

1. 「組織図」
（令和 2 年度 FD カフェ会員組織図）

2. 「活動方針」
（令和 2 年度 FD カフェ会員会議事録）

3. 「FD カフェ」
（令和 2 年度 FD カフェ会員会議事録）

4. 「実際のポスター」

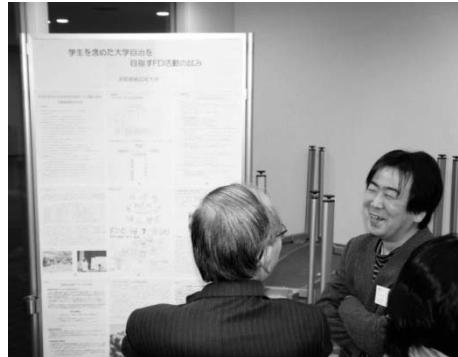
5. 「室内における望ましい自己意識の醸成」

6. 「学生がFD活動の成果を発表する会場」

7. 「FD会員によるFD活動の説明」

8. 「FD会員によるFD活動の説明」

9. 「FD会員によるFD活動の説明」



テーマ	エンロールメント・マネジメントと学生リーダー組織育成			
学校名	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部			
発表代表者	鹿島 我			
連名発表者	吉田 咲子	岡部 友香	橋詰 侑季	宮田 致江
	相場 浩和			
キーワード	エンロールメント	学生リーダー組織		
	学生会（自治会）			
概要	<p>学生の主体的学びを活性化するためには、正課の教育改革とともに、正課外の様々な取り組みを促進することが重要である。そこで、これまで学生の活動の場としては想定してこなかった新たな領域や、学生・教員・職員協働という新たな形態での多様な取り組みを作り出すことが重要になっており、本学では、例えばオープンキャンパスの学生リーダーを作るなどの個々の取組をおこなってきた。一方、従来、学生の主体的活動の核となってきたのは、学生の自治組織である学生会である。しかし、最近の学生の質の多様化や活動の継続性の困難さから、必ずしも主体的活動の核としては不十分に機能していない。そこで、これまで学生任せにしてきた学生会の活動をエンロールメントマネジメントの一環として重視し、これに冒頭に述べたさまざまな新プロジェクトを追加して、教職員がサポートしていくという、新たな学生リーダー組織育成・強化の仕組みつくりを計画している。本発表では、その計画の概要を報告する。</p>			



テーマ	学生 FD スタッフ燐が実施したイベントの成果・課題			
学校名	京都産業大学			
発表代表者	徳田 義貴			
連名発表者	竹谷 美里	若宮 健	金坂 舟	佐藤 里奈
キーワード	学生 FD		イベント実施による成果・課題	
	共創風土の醸成		教職学協働	
概要	<p>燐は、授業改善と大学共創の実現を目的としている。それを達成するためには、学生・教員・職員の枠を超えて三者で語り合う「場」と「機会」が必要である。</p> <p>今年度は2つのイベント（①学生 FD サミット 2013・夏 分科会Ⅱ「それでも僕は考えたい～学生 FDへの『思い』～」、②燐 presents 「京産共創」プロジェクトⅢ～僕らが創る新たな絆～）を企画・実施した。</p> <p>開催した結果、異なる三者の考え方を共有し再認識するという成果を得た。その上で、今後の活動にどのように活かすかという課題への対応案を検討している。本発表では、対応案も含め、学生が発表する。</p>			

FD活動を通して得た成果・課題
京都産業大学 学生FDスタッフ燐 SAN

燐とは？
学生・教員・職員が一緒に、よりよい京都産業大学を目指していくための活動である。2011年の活動のポイントはそれが抱えている「思い」を知ること。それによって、意識の内面から行動の外側へと変化を起こす力を探ること。そのためには自分自身の内面を覗き、自分自身の行動を覗くことである。

大学共創

「京産共創」プロジェクトⅢ
～僕らが創る新たな絆～

☆テーマ☆
「もし専門がなければどのような授業を受けれるのか？」
→互いに図って専門の授業を考える。
「人生における大学生活の4大問題とは？」
→明日からできる小さな変化 持続の使い方を考える。

☆参加者数☆
100人でグループワーク
・学生：筑波・義貴・職員：約80人

☆話しやすい環境作り
・入り口でのディスカッション用階段
・BGMをかける
・メッセージカードの設置

☆見直しの収集・整理
・意見シートの回収
・データブックの作成

☆思ひの共有
・意見シートの回収
・意見シートの回収

☆会場の構成
「教職の方々の姿といいあまりない姿が見られ、年齢の隔たった方々の意見などを聞くことができ、とても充実した時間を過ごすことができました。」
「今までの経験を振り返り、自分なりに意見を述べることができました。」
「自分たちの意見を伝えられる機会が少ないので、自分の事を知ろう！」
「自分たちの意見を伝えられる機会が少ないので、自分の事を知ろう！」
「自分たちの意見を伝えられる機会が少ないので、自分の事を知ろう！」

☆会場の感想
「初めてのイベントで様々な意見を聞くことができ、それにより幅広いイベントや会議に対する理解が深まりました。そして、このイベントで得た意見・感想をしっかり大きめにフィードバックすることができました。」
「私は全く大きなでの知名度を上げてあります。これまでにイベントに参加した意見や感想の他に、少し印象がある程度の学生をも取ってきましたが、より積極性を出やすくなることができるところです。大学にちょっと別れる風景を発見します。大学全体の風の向上を図るようなイベント、運営するの春がある。」

Keep Innovating
50th 京都産業大学

「アホなことを真剣に、マジメなことを楽しく。」 By SAN

